

誰が俺を狂わせるか

2008(平成20)年2月23日鑑賞(ホクテンザ1)



特集

熱狂的ブームの去った今こそ真価を問う!

監督・脚本=ク・イムソ/出演=イ・ビョンホン/チェ・ジンシル/チェ・ジョンウォン/
チェ・ハンナク/チョ・ソンムク/イ・ボンギョ/キム・イル/クォン・ヨンウン/チョ・
ジュミ/イム・デホ (エスピーオー配給/1995年韓国映画/108分)

…… 1995年のイ・ビョンホン初主演作は、何と仕事もダメ、彼女との関係もダメの落ちこぼれ役。こりゃ、ちょっとかわいそう……。韓国は徴兵制の国だと考えれば、タイトルの意味がよくわかり、なるほどと思えるが、序盤から中盤の間延びした展開は工夫がなさすぎでは……。これでは高得点はとて……。

ホクテンザで2008年2月23日から3月21日まで開催される「韓流セレクション」のスタートとしてこれを鑑賞。韓流セレクションは、毎日2本立てで各4日ずつ、6つの〇〇特集を上映するから、作品数は合計2×6=12本。このうち『夏物語』(06年)、『シネマルーム13』136頁参照)と『卑劣な街』(06年)、『シネマルーム15』79頁参照)は既に観ているので今回は省略し、残り10本を観る予定。さあ大変だ。

今回「イ・ビョンホン特集」として上映された『誰が俺を狂わせるか』は1995年の作品で、イ・ビョンホンが25歳の時の映画主演デビュー作。ところが、映画初主演作にはえらくみじめな役。つまり、7度も小説家への挑戦に失敗し、今は恋人ジュヨン(チェ・ジンシル)の勤めている製薬会社でセールスマンをしているジョンドゥは、仕事もダメなら、恋人との関係もダメという典型的な落ちこぼれ。

いつもジョンドゥが話しているのは、同僚への社会へのそして恋人への恨みつらみばかり。これでは一体どうなるの……。ホントに自己責任はないの……。そして、自己変革の必要性は……。?

ジョンドゥはダメ営業マンだが、ジュヨンは美人で優秀。したがって、身体を張って営業しているとのうわさ話などものともせず大きな成果を挙げ、ジョンドゥたちの上司に就任したから話はややこしい。しかもその時は、「ある事情」によってジョン

ドゥとジュヨン、ジュヨンからの「お互い干渉しないこと」という条件付きで同棲中……。

韓国における社員同士の「ノミニケーション」は日本人以上に濃密なようで、飲み会から見えてくるさまざまな人間関係と人間模様は面白い。しかしそこでも、ジョンドゥのダメさ加減が徹底的にあぶり出されることに。

この映画が韓国の映画だと実感するのは、徴兵制が若者の生き方の中に大きく取り込まれていること。海兵隊の上司(?)とのやりとりはマンガ的だが、海兵隊の服を着て銃を持てば、いくら訓練をさぼっている最中といっても立派な武装兵。

仕事と彼女に絶望し、自分の人生に何の希望も持てなくなった、しかし性欲と血気だけは盛んな若者(バカ者?)が自由に銃を使うことになれば、そりゃヤバイのでは……?

序盤から中盤にかけて延々と続くジョンドゥのダメぶりと、美人の上司ジュヨンによるジョンドゥいじめ(?)には多少うんざりだが、やっと後半に大転換が訪れるので、それまでは若干我慢が必要……? そして、人質籠城事件(?)という大変な事態となった後、やっと多くの登場人物たちのホントの姿が見えてくることに。また、そんな事態になってやっと、ジュヨンのジョンドゥに対する想いも本音が……。

それにしても、ジュヨン役のチェ・ジンシルはすごいキュートな美人で、当時韓国で最も人気を集めていたらしいが、その後の彼女の活躍は……?

2008(平成20)年2月25日記